

住み慣れた町で末ながく ～地域で支える～



加藤病院副院長
加藤雄輔 医師

新年あけましておめでとうございます。
昨年は格別の御厚情を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、私共がこの豊肥地区において認知症疾患医療センターとして拝命を頂き、今年で5年目を迎えることになりました。これまでに、ケーブルテレビや公民館などで、認知症をより身近に知っていただくための取り組みとして、講話や当院職員による劇団「稲葉よろうち座」公演を中心に普及と啓発活動を積極的に行っていました。

一昨年度からは、竹田市社会福祉協議会と地域包括支援センターとの連携の基、市内全地区の公民館や分館で定期的実施されております「生きがいサロン」にご一緒させて頂き、認知症の早期発見・治療の重要性だけでなく、より重要な予防とその身近な実践法についての理解を深めていただくための、予防講話を展開させていただきました。

このように継続してまいりました普及活動は、かかりつけ医の先生方や関係各所の方々の多大なるご理解・ご協力のもと、認知症の前段階である軽度認知障害(MCI)や、早期の認知症状態での受診に結び付いており、その連携の質に関しましても、県下で高い評価を頂いております。

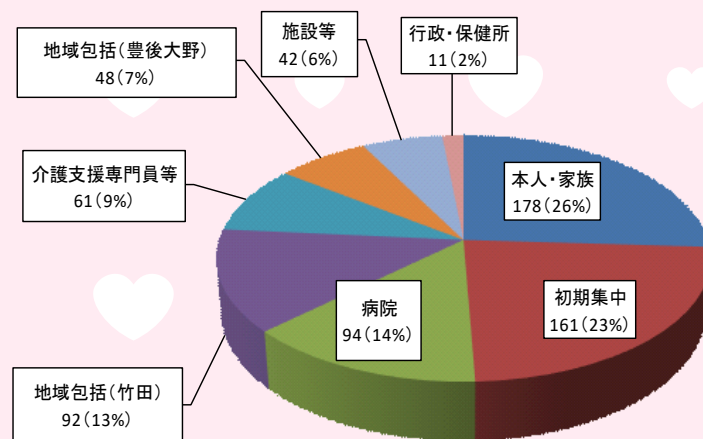
昨年度は竹田市地域包括支援センターと共働で、実際の認知症予防および健康寿命を伸ばしていくための認知症予防教室を本格的に開始いたしました。

近年、社会保障費を確保するための増税が避けられない少子高齢化社会の中で先進地域にあるこの豊肥地区で、「住み慣れた町で末永く心身共に健康に暮らしを維持していく」ための環境整備を行政の方々をはじめ関係各所の方々と連携において、実現可能性のあるものとして具体的に進めていくことが必要と考えております。

特に健康寿命を伸ばすために効果が示されている1次予防および2次予防を継続して実践していただくための可能な限りシンプルで継続しやすい方法を、若い世代の方々にもしっかりと認知していただくための組織作りが非常に重要と考えております。

健康に興味のある方、健康事業を推進されている様々な業種の方々が、「竹田式」の健康寿命延伸の取り組みについて、一緒に考え意見交換を気軽にできるような形づくりがこれから求められてくると思います。

皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたしますとともに、本年もより一層のご支援ご指導の程、宜しくお願い申し上げます。



相談経路分類

ホッと情報

～皆様のお声を大切に～



待合ロビー変更前



面会室

当院では院内にご意見箱を設置し、患者さんやご家族からのご意見を、お伺いしています。いただいたご意見は関係部署と共に、改善に向けて病院全体で取り組んでいます。

今回は「病院の待合室の椅子が少ない」とのご意見を頂きました。

以前は円形のソファでしたが、今回緑色の個人用ソファに取り替えお待ちのお客様も、ゆっくり座れるように致しました。



待合ロビー変更後

また、病棟内の面会室も「窓があるとよい」とのご意見をいただきました。窓の設置は構造上難しいので、壁紙を明るい色に貼り替え、面会室を和やかで落ち着いた雰囲気改善致しました。

今後も患者さんやご家族のご意見・ご希望をお聞きしながら改善をしていきたいと思っています。

ボケん脳教室について

高齢化が進む竹田市において、MCI（認知症の前段階）の方は高齢者の40%近くと予測されており、MCIの早期発見と予防教室として、今年度より「ボケん脳教室」を竹田市より委託を受け行っています。

「認知症予防講座」を含めて4ヶ月間にわたり、65～79歳の希望者を対象に運動習慣の改善から、認知症予防の取り組みを行います。

特に7000～8000歩／日の歩数と20分／日の運動が有用とされており、医師を中心にPSWやPT等の専門職が早期から介入する事により、自宅での目標に取り組めます。

今年度は長湯・豊岡地区の2カ所のみでの取り組みですが、30年度以降は更に内容を深めて、より広い地域で実施する予定です。



長湯地区



豊岡地区